



だんじりの屋根の上に乗る「屋根役」は、そのいでたちや振る舞いに華があります

連綿と受け継がれてきただんじりや山車が、まつりに大輪の「華」を添えます

華



み

# だんじり！ まつりの秋！

だんじりに魅せられる津山の秋。老若男女が走り、曳き、叫ぶ！「津山の粹」を体感してみませんか。

粹



# 宵祭り

本祭りの前日に行われる宵祭り。提灯の明かりに照らし出された彫刻が幽玄に浮かび上がります



# 神輿！

練り歩く 走りくる



だんじりでは、乗り子が太鼓や半鐘・だんじり囃子で曳き手をあおり、祭りを盛り上げます。子どもたちの元気な掛け声が響くのも、祭りの見どころ（聞きどころ）です



## 津山だんじりの始まり

慶長9年（1604）、津山初代藩主・森忠政が総鎮守・徳守神社を再建し、間もなく、同宮の祭りが始まったとされ、氏子が練り物（山車や行列）を出したのも同時期とされています。寛文7年（1667）には、徳守神社の祭りに24町から練り物が出ています。

宝永4年（1707）には、大隅神社の祭礼にも練り物が出され、以後、恒例となりました。津山だんじりは、明治時代まで縁柱に担ぎ棒を通し、だんじりを担いで威勢を競っていましたが、大正時代から昭和にかけて台車に乗せて曳き出す現在の形へと変化していきました。

現在は、徳守神社と大隅神社に高野神社が加わった秋祭りを「津山まつり」として、だんじりが出動しています。

## 今年のだんじりが勢ぞろい

天保13年（1842）、だんじりの出動台数が制限され、安政3年（1856）、各町のだんじりの出動順序が決まりました。それ以来、津山まつりにすべてのだんじりが出そろったことはありません。これは、祭りに掛かる費用が大きくなり、困る町内が出て来たため、隔年の出動とすることで各町の負担を抑える目的のものでした。この隔年の出動は、150年以上を経た現在も残っています。今年、美作国建国1300年を記念して、史上最多のだんじりが津山のまちを練り歩き、走ります。

## 津山だんじりの紹介（順不同）

### 徳守神社

県重要有形民俗文化財のだんじり

- 巻龍臺（伏見町）、紅葉臺（京町）、桜若（河原町）、鱗龍臺（船頭町）、鯨若臺（小性町）、雙龍臺（吹屋町）、飛龍臺（新魚町）、鶴龍臺（二階町）、麒麟臺（元魚町）、隼臺（新職人町）、群龍臺（戸川町）、龍虎臺（下紺屋町）、錨龍臺（鍛冶町）、龍珠臺（坪井町）、簾珠臺（宮脇町）、鰐若臺（西今町）、鳳龍臺（安岡町）、龍筆臺（福渡町）、東雲臺（堺町）、錦龜臺（茅町）

### 飾り山車

- 翔龍臺（西松原）、昭和龍（昭和町）、南新丸（南新座一丁目）、鉄砲町

### 大隅神社

県重要有形民俗文化財のだんじり

- 松栄臺（東松原）、鳳凰臺（古林田）、龍鷹臺（東新町）、龍宝臺（西新町）、勢龍楼（中之町）、麒麟臺（勝間田町）、玉獅子臺（玉琳）

### 飾り山車

- 八幡臺（川崎）、吠龍臺（太田）、金鳳臺（兼田）、上之町七丁目

### 高野神社

### 飾り山車

- 和天臺（大和町）、龍櫻臺（桜町）、松龍臺（松原上）、松栄臺（松原中西）、松長放兼園（松原中）、二宮山西、松原北、俵田、大東、旭、松南、さくら台